論文の内容の要旨

論文題名
自己記入式評価尺度を用いた，自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠如・多動症（ADHD）の臨床症状の相違点と類似点

掲載雑誌名
昭和学士会雑誌　第 82 巻　第 2 号　2022 年

医学研究科病理系薬理学(臨床薬理学分野)専攻 博士課程　田中有咲

内容要旨
【背景・目的】自閉スペクトラム症（Autism Spectrum disorder：ASD）と注意欠如・多動症（Attention Deficit Hyperactivity Disorder ： ADHD）は，病態機序が異なる疾患と考えられてきた．しかし両者の特徴をもつ症例が少なからず存在する．ASD 患者の多くは ADHD 患者と同様の注意障害を示し，ADHD 患者は自閉症症状を呈することも多い．本研究では，自己記入式評価尺度を用いて ASD と ADHD 臨床症状の比較をした．
【方法】自己記入式評価尺度として，自閉症スペクトラム指数（Autism-Spectrum Quotient ： AQ）と自己記入式のコナーズ成人 ADHD 評価スケール（Conners’ Adult ADHD Rating Scales：CAARS）を用いた．ASD 30 名，ADHD 31 名と精神科通院歴がない定型発達成人 29 名を対象とした．
【結果】 AQ は，ASD 群で最も高く，定型発達群，ADHD 群に比べて有意に高かった．ADHD 群においても，定型発達群に比べて有意に高かった．CAARS は，ADHD 群で最も高く，ASD 群においても定型発達群に比べて有意に高かった．
【考察】 両疾患は臨床症状が類似することが多く，このようなことから診断を困難にさせる．さらに双方の疾患特性に関して生活歴や現病歴の聴取、診察時の現症から検討を進める必要がある．